

平成23年4月13日

趣意書

(陸前高田市国民健康保険 広田診療所復興委員会)

2011年3月11日(午後2時46分頃)に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0、最大震度7(宮城県栗原市)という我々の想定をはるかに超える規模の地震でした。それにもまして、高さ20mを超える大津波により沿岸地域では市街地の大部分が破壊され、多くの人命と財産が奪われる結果となりました。

現在、被災地では復興に向け懸命な努力がなされているところですが、国や県レベルの支援がなかなか被災地まで届かない状況が、1ヵ月を経過した今もなお続いています。我々は、被災者に何らかの支援をしたいと思っておりますが、新聞等の報道によるとボランティアの受け入れが困難との情報があり、日本赤十字社を通じて支援金を送ることしかできません。しかし、その支援金もいまだ被災者へは届いておらずその時期すら不明の状況です。

このような状況の中、津波による大きな被害を受けた陸前高田市広田地区の避難所で、献身的な医療活動を行っている近江三喜男医師の様子が、新聞各社の全国版で報道されました。近江医師の勤務していた陸前高田市国民健康保険広田診療所は、今回の津波により壊滅的被害を受け、建物の倒壊は免れたものの、すべての医療機器やカルテ等が土砂に埋まりました。近江医師は、土砂の中から聴診器を探し出し、それを水で洗い、避難所となっている小学校の保健室に臨時診療所を開設し、被災者や訪れる多くの地元の患者の診察、診療を続けておりますが、限られた医療器具や医薬品による診療には限界があります。また、近江医師自身も今回の津波による被災者であり、陸前高田市内の自宅を津波で失ったため、1ヵ月を過ぎた現在も、広田地区の避難所で、被災者と共に、寝袋で過ごしています。近江医師は、臨時診療所での診療を行いながら、今後も引き続き地域医療に取り組みたいという熱意から診療所の一日も早い復興に向けて取り組んでいます。この近江医師の献身的な活動を知った方々から、支援金の申込みが多数寄せられたのを受け、この度、支援グループ「広田診療所復興支援委員会」を設立し、最低でも必要な医薬品、器具の補充、訪問診療の中古車を確保することを目標に支援金を受け付ける口座を開設することにいたしました。報道各社にも広報のお願いをし、広く支援を受け付ける所存です。

趣旨をご理解頂き、各位の格段のご支援・ご協力をお願いいたします。

なお、集まりました義捐金は陸前高田市災害対策本部を通す予定です。

1、近江三喜男医師の略歴

岩手県陸前高田市出身。1973年、東北大学医学部卒業。米国留学後、東北大学医学部附属病院、山口大学附属病院、国立仙台病院勤務を経て、東北大学医学部心臓血管外科准教授。その後、国立病院機構仙台医療センター心臓血管外科部長と東北大学医学部臨床教授を兼任。

2006年4月より、陸前高田市国民健康保険 広田診療所所長。

2、支援金受付口座（ゆうちょ銀行振替口座）

口座記号番号：02210-4-117862

加入者名：陸前高田市国民健康保険 広田診療所復興委員会

他銀行から「ゆうちょ銀行」への振込みの場合

二二九（ニニキュウ）店（229） 当座 0117862

3、陸前高田市国民健康保険 広田診療所復興委員会

代表：近江 三喜男

副代表：橋都 浩平

幹事：近江 八千代

監事：佐藤 勲

岡本 万澄

4、問い合わせ先

近江 八千代（材、ヤブ）

仙台市青葉区荒巻神明町16-43-513

携帯：090-4552-9252